

次世代の担い手育成事業

事業の特徴

本事業は、部活動や夏休みのボランティア体験とは異なり、以下の応援団体の協力を得ながら学校の授業時間に社会福祉の仕事を実験的に理解するものです。

「次世代の担い手育成事業」応援団体一覧

京都府社会福祉法人経営者協議会／京都府社会福祉施設協議会／京都市社会福祉施設連絡協議会／
 京都府老人福祉施設協議会／京都市老人福祉施設協議会／京都府介護老人保健施設協会／
 京都知的障害者福祉施設協議会／京都府障害厚生施設協議会／京都私立病院協会／
 京都府介護支援専門員会／京都社会福祉士会／京都府介護福祉士会／京都精神保健福祉士協会／
 京都府医師会／京都府看護協会／介護労働安定センター京都支部／きょうとNPOセンター／
 京都府介護福祉士養成施設連絡会／京都市社会福祉協議会／京都府社会福祉協議会／京都労働局／京都市／京都府

Q まったくはじめてですが…?

A 参加される学校や福祉施設等には、本事業用に作成された教材（指導者用ガイドブックや生徒用ワークシート）をご提供します。それを参考に、事前研修会を開催したり、関係者と調整・相談したりして、学校の授業時間枠や導入される学年や地域にあった授業を行うように支援いたしますので、安心してご参加ください。

Q 応援団体からどのような支援を受けられますか？

A 下記のような活動をお手伝いします。

- 授業での疑似体験（車いす、アイマスクなどの用具貸し出しや指導員の派遣）
- 施設見学の受入
- 職員への取材や利用者との交流機会の提供
- 施設での仕事体験の受入
- 授業への講師派遣

Q 事業の実施には、どれくらいの経費が必要ですか？

A 事業に参加されるのは無料です。
 ただし、講師謝金や車両借上費などが必要になる場合は、事務局にお問い合わせください。

<事務局・問い合わせ先>

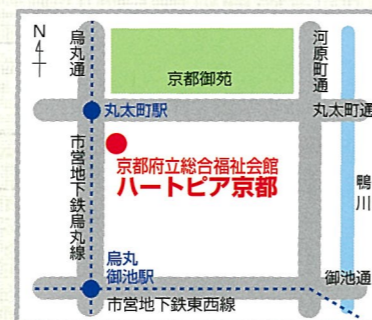
介護・福祉人材総合支援センター

（京都府社会福祉協議会内 京都府福祉人材・研修センター）

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入清水町375ハートピア京都地下1階

TEL:075-252-6298 FAX:075-252-6312

きょうと介護・福祉ジョブネット：介護・福祉人材の確保・定着のため、事業者団体・職能団体・福祉系学校・行政等関係機関が共同で設立したプラットフォーム



福祉の仕事を通じたキャリア教育実践

STEP 1
導入学習



高年齢になると
どんなことに
困るかな？



STEP 2
事実を調査
(取材や体験)

仕事って大変！
だけど楽しい！



STEP 3
学びを広める

この施設には
こんな工夫が
ありました！



事業の目的

次世代の担い手育成事業とは？

この事業は、将来の社会を担う子どもたちが授業を通して福祉の現場を知り、仕事の魅力にふれることで、高齢者・障がい者福祉の現状や福祉分野の職業について理解を深めようとするものです。

ねらい

子どもたちが、将来社会人として自立していくために働くことの喜びややりがい学ぶとともに、福祉分野の課題解決に参画する姿勢を育成していきます。



モデル事業のプラン例

授業プラン① (10時間モデル)

- これからの活動について (1時間)
- 専門家から学ぶ (1時間)
- 現状の整理と取材準備 (1時間)
- 施設訪問と取材 (4時間)
- 取材のまとめと分析 (2時間)
- 発表と提言 (1時間)

授業プラン② (20時間モデル)

- これからの活動について (1時間)
- 専門家から学ぶ (1時間)
- 現状の整理と取材準備 (1時間)
- 施設訪問と取材 (4時間)
- 取材のまとめと職業体験の準備 (1時間)
- 職業体験に向けて (1時間)
- 職業体験 (6時間)
- 学習したことを広めるために (2時間)
- 企画書を形に (2時間)
- 専門家から学ぶ (1時間)

その他

1時間からの授業プランも可能です。

- 疑似体験
 - 施設見学
 - 職業体験
- など、ご希望に応じて対応します。



実践者の声

学校の声

子ども達が触れ合える体験で、良い経験になりました。利用者さんにも大変優しく接していただき、福祉施設から帰ってきた時に色々な思い出を話してくれました。その中で、福祉の仕事の魅力を子ども達なりに考え、あこがれを持つ子どももいました。また、新聞を発表するの初めで、グループで協力して、相手に伝えることの楽しさも同時に味わえたようです。

福祉の意味すら理解していなかった児童が、いろいろな体験を通して、福祉とは何かを理解することができた。また、社会的に弱い立場にいる方達へ、どう接すればよいのか思いやりの心が、育成できた。

協団体の声

福祉に対するイメージが「楽しそう。」と感じてもらえた。受け入れ側施設職員の日々の業務について、改めて見直す機会となった。体験を通して自分たちの地域にある施設について理解してもらい良いきっかけとなった。

ご利用者に「ありがとう」と言われたり、皆さんの笑顔を見て、福祉の仕事に魅力を感じたと言われた。児童との交流でご利用者が、とても喜ばれて和やかな表情をされるので、よい機会となった

実際に利用者に関わったり、職員とのインタビュー等を通して、学校以外でしか経験出来ないことを児童に学習してもらいましたが、最後に児童に感想を聞くと、「楽しかった。」と答えてくれ、楽しみながら体験してくれたことで将来の仕事の1つとして考えてくれるきっかけになったのではと感じています。

STEP 3

学びを広める

学習したことをより多くの人に知ってもらうために、広報誌やCMなどを作成したり、発表会を開いたりします。



STEP 1

導入学習

福祉について基礎的なことを学びます。

STEP 2

事実の調査

施設の方など専門家から話を聞いたり、実際に施設で職業体験をしたりして、さらに理解を深めます。

授業内容

高齢者や障がい者、児童等に福祉サービスを提供している施設の協力を得て、そこで働く人への取材や実際の仕事体験を通して、福祉の現状や課題、福祉に関わる職業についての理解を深めるための実践教育の授業を行います。

対象学年

概ね、小学校4年生から中学校3年生を対象としています。

授業時間

1時間からでもご都合に合わせて実施可能です。 ※取り入れる活動内容によって異なります。

作成するもの

福祉の現場で働く人について気づいたことや、これからもっとこうすればさらに良くなることを広報誌(新聞など)やCMなどにまとめて発表します。

習得スキル

以下のような能力の育成を目指しています。

- ◆ チームで働く力
- ◆ リーダーシップ
- ◆ コミュニケーション能力
- ◆ 情報収集・分析能力
- ◆ 表現力 など

子どもたちの声

お年寄りの人にあったら、笑顔でいさつをしようと思った。大切なのは、どんなときも思いやりを持って接するということを学んだ。

仕事体験は大変だったけど、1つ1つおもしろかった。また、行きたいと思った。

施設に行った時、利用者の方に笑顔で迎えていただいた。仕事の時、ありがとうと言っていたら嬉しかった。

僕たちは、次の高齢化社会を支える一人にならなければならないと思った。

福祉の仕事

次世代の担い手育成事業合同発表会

次世代の担い手育成事業実践校が一堂に会し、その取り組み活動を発表します。

